



ROCK PAINT

033-8150 建築用シーラー

エポシーラーマルチ

弱溶剤一液型変性エポキシ樹脂シーラー

弱溶剤型の一液反応硬化型特殊エポキシ樹脂を配合した「エポシーラーマルチ」は、付着性および浸透性にすぐれた高性能クリヤーシーラーです。

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます。

特長

●付着性・浸透性にすぐれる。

各種素地によく浸透し、脆弱素材の表面を補強し、すぐれた付着性を発揮します。また水分や炭酸ガスの浸入を防ぎ、コンクリート、モルタルなどの中性化を防ぐ効果があります。

●弱溶剤型

溶解力の弱い溶剤を使用しているため、旧塗膜を侵すことがなく、活膜状態の各種旧塗膜に直接塗装が可能です。また、においがマイルドなため、周辺地域や作業者の環境にも配慮した塗料です。

●幅広い上塗り適性

一液タイプから二液タイプまで、弱溶剤上塗り塗料が塗装可能である上、水性上塗り塗料にも適性があるため、塗り替え改修に適したシーラーです。

●一液架橋型

二液型塗料と違い、配合の手間やミスがなく、作業性にすぐれています。また可使時間の制限もないので、塗料を無駄にすることがありません。

適応素材

- 屋内外部コンクリート、モルタル、フレキシブルボード、サイディングボード、せっこうボード、けい酸カルシウム板※、住宅用化粧スレート（各種新屋根材）など

※けい酸カルシウム板は素材、劣化具合により、付着不良を起こす場合がありますので試し塗りを行った後、仕様を決めてください。

適応旧塗膜

- 各種水性塗料、溶剤型塗料の塗り替え用としてご使用できます。

※シリコン、フッ素樹脂系の旧塗膜には使用できません。

水性の旧塗膜の場合、リフティングを起こすことがあります。試し塗りなどで確認してください。

ロックペイント

標準塗装仕様 (塗り替え)

| 工程 | 使用塗料 | 希釈剤 | 塗装方法、希釈率(%) | 塗装回数 | 標準塗付量 (kg/m ² /回) | 塗り重ね可能時間 (23℃) |
|---------|---|---------|-------------------------------------|------|------------------------------|----------------|
| 下地調整 | 旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分などはワイヤーブラシ、皮スキなどのケレン具を用いて完全に除去する。 また、エフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄な面とする。 | | | | | |
| 下塗り | 033-8150 エポシーラーマルチ | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー : 0(通常不要) エアレス : 0(通常不要) | 1 | 0.08~0.10 | 3時間以上 |
| 適応上塗り塗料 | 水性塗料: ハイパービルロックセラ(111L)、サンフロンアクア(O81L)、ビニロックウレタン(108L)、ユニロックハイグロス(O72L)、 ユニロックV.O-II(O75L)、ロック水性プロテクトルーフ(129L)など 弱溶剤塗料: ハイパーユメロック(114L)、ユメロック(114L)、サンフロンUV(O81L)、1液ユメロックDX(O24L)など | | | | | |

※仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のモノで、塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などにより多少異なる場合があります。

※旧塗膜は活膜であることが前提です。つや消しの上塗り塗料には適しません。

塗布面積

140~175㎡/14kg・回

品番・容量

033-8150 エポシーラーマルチ 14kg

施工上の注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 気温が低いときや湿度が高い場合には、完全な塗膜ができにくく十分な性能を発揮できませんので、気温5℃以下、湿度85%以上での塗装は避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 塗料全体をよくかき混ぜ、均一にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。吹付け塗装の場合は注意してください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測される場合は外部の塗装を避けてください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマーS」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離はがれ・割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので試し塗りをすることをお奨めします。なお、ノンブリードタイプのシーリング材に「ロックノンタックプライマーS」は塗装しないでください。
- エマルジョンパテの外部での使用は避けてください。
- 外部の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- 塗装面の取り合い等で可塑剤が多く含まれる建材(塩ビ鋼板、ラミネート鋼板、プラスチック、ゴムパッキン、塩ビクロスなど)への直接の塗装は塗膜が軟化する恐れがありますので避けてください。また、これらの素材に塗膜が接触・付着しないように注意してください。
- 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他の断熱性が付与された建材など)を使用した高断熱型仕居の外装を塗装する場合は、状況により蓄熱・水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 笠木、天端など長時間水の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 比較的に緻密な素材である押出成形板やGRC板へ塗装する場合は、ユメロックシーラー、ハイパーシーラーエポ、ハイパーシーラーアクアを下塗りとして使用してください。
- サイディングボード表面に反り、うねりが発生している場合は、ビスの増す打ちなど状況に応じた補修を行ってください。また補修が困難な場合はボードの張り替えを行ってください。
- フッ素コート処理をはじめ無機系や光触媒処理のサイディングボードには、ハイパーシーラーエポ、ハイパーシーラーアクアを下塗りに使用してください。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- 屋外セメント系素地に段差・巣穴などがある場合は、セメントフィラーを用いて不陸調整を行ってください。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗付量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。
- シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- 吸い込みの大きい素地に塗装する場合は、8時間以上(23℃)塗装間隔をあけてください。
- 硬化が不十分な場合に、塗料用シンナーで再溶解する場合があります。
- 素地が濡れている時は塗装を避け、乾いてから塗ってください。また、素地が直射日光などで極端に熱くなっている時は塗装を避け、少し冷えてから塗装してください。
- 乾燥過程で霜、夜露などの影響を受ける時間帯や、昼と夜の温度差が大きい時期は、結露による膨らみ現象が起こる場合があるため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 塗装時は、高い所から降り口を確保しながら塗装してください。塗りたての面は滑りやすいので絶対に乗らないでください。塗り残しがあった場合も乾燥後に補修塗りを行ってください。
- 作業時の安全には十分注意し、高所で作業する場合は安全ロープをかけて行ってください。
- 新屋根材などで軽度の不陸がある場合は、下地調整材としてロック水性プロテクトルーフサブを使用してください。
- 無機系、フッ素系などで処理した住宅用化粧スレート(新屋根材)には、下塗りにハイパーシーラーエポを塗装してください。
- セメント系瓦の場合、塗装後に水切り部で瓦の重なり合った部分に塗料が付着していると漏水の原因となります。必ず皮スキなどを使用し塗料の除去、縁切りを行ってください。
- 改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りをしたうえで本塗装を行ってください。
- 陶器瓦、アスファルトシングル材、乾式コンクリート瓦(モニエル瓦、スカンジア瓦など)には適していません。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分に行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りをすることをお奨めします。
- 旧塗膜が弾性系の塗膜(弾性リシン、弾性スタッコ)やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにふくれが発生していることがあります。そのまま塗装するとふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 塗り重ね可能時間(乾燥時間)は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより、多少変わります。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる事があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- この塗料はホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆☆☆タイプです。F☆☆☆☆☆以外の材料(被塗物、素地を含む)を使用したり、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆☆でなくなることがありますので注意してください。
- このカタログに記載されている上塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- 取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート(SDS)をよく読み、注意事項を厳守してください。
- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクなどの適切な保護具を着用してください。
- できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護めがね、保護手袋(耐溶剤性)、長袖作業着等を着用してください。
- 取扱後は手洗い及びうがいを十分に、作業着等に付着した汚れをよく落とすしてください。
- よくふたをして直射日光を避け、5℃以下40℃以下の子ども手の届かない一定の場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ってから廃棄してください。
- 指定された以外の製品と混合しないでください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。

安全衛生上及び取扱上の注意

(製品の危険・有害性)

- 引火性の液体である。
- 溶剤蒸気を吸入すると有機溶剤中毒になる恐れがある。
- 目、皮膚、粘膜等に対し刺激性がある。

(救急処置)

- 目に入った場合は直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

(取扱注意事項)

- 取扱は引火源のないところで、特に静電気が発生するような衣服、取扱は避けてください。
- 取扱作業所には、局所排気装置を設け、塗装時及び乾燥時には十分換気を行ってください。

- 安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。

(施工後の安全性について)

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分に注意を払うようにご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ベンキ塗りたてであるなどの立看板を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにご配慮願います。

ロックペイント株式会社

販売店

東京営業部 〒136-0076 東京都江東区南砂2-37-2
TEL(03)3640-6000 FAX(03)3640-9000

大阪営業部 〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3-1-47
TEL(06)6473-1650 FAX(06)6473-1000

札幌営業部 〒003-0011 札幌市白石区中央一条4-3-48
TEL(011)812-2761 FAX(011)812-9304

名古屋営業部 〒454-0059 名古屋市中区福川町1-1
TEL(052)351-6500 FAX(052)361-7433

仙台営業部 〒983-0044 仙台市宮城野区宮代2-3-11 遠正ビル201
TEL(022)349-8677 FAX(022)283-3255

岡山営業部 〒701-1134 岡山市北区三和1000-34
TEL(086)294-1201 FAX(086)294-6966

西関東営業部 〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本1-15-16
TEL(042)700-3111 FAX(042)700-3112

福岡営業部 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3-2-1
TEL(092)962-0661 FAX(092)963-1241

URL <https://www.rockpaint.co.jp>

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。